

令和6年度データサイエンスリテラシー

点検・評価報告書

1. カリキュラムについて

当該プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、応用基礎レベルに認定されている。このため、当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める応用基礎レベルの内容を教育しているかについて、各区分で受講生が多かった次の科目のシラバスを点検した。

- 区分 A：データサイエンス総論 I
- 区分 A：データサイエンス総論 II
- 区分 B：基礎数理 B
- 区分 C：情報社会論
- 区分 D：データサイエンス基礎演習

上記科目のシラバスにより、当該プログラムは文部科学省が定める応用基礎レベルの学修内容を含んでいることが確認できた。しかしながら、2024 年度に改定された応用基礎レベルのカリキュラムでは、「生成 AI」の内容が拡充されている。これに伴い、当該プログラムのカリキュラムを再検討する必要がある。

2. 履修状況について

新潟大学では、一学年の入学者数がおおよそ 2300 人のところ、当該プログラムの修了者数は 69 人である。また、履修者も理学部と工学部の学生がほとんどである。当該プログラムに含まれる数学・統計学科目の多くが数学・統計学を学部の特設教育で扱わない学生にとって授業内容が難しいことが考えられる。当該プログラムの履修者を増やすためにも当該プログラムに含まれる数学・統計学科目の授業内容を検討する必要がある。

3. 授業評価アンケートの結果について

次の科目の授業評価アンケート結果を点検した。

- 区分 A：データサイエンス総論 I：19 科目
- 区分 A：データサイエンス総論 II：16 科目
- 区分 B：基礎数理 B：9 科目
- 区分 C：情報社会論：1 科目
- 区分 D：データサイエンス基礎演習：26 科目

ほとんどの科目において、学生は受講マナーを守って授業に参加しており、シラバスに書かれている到達目標を達成できたと考えている学生が多いことが確認できた。また、授業内容は整理されていて、教員のプレゼンテーションも明瞭であったことが確認できた。さらに、データサイエンス基礎演習では「他の学生との議論や協働作業に積極的に取り組みましたか」の設問に対する評価が高かった。一方、「学生が積極的に議論や協働作業す

ること」や「教員が学生の発言を促す」の評価については、一部の科目では評価が高かったが、多くの科目では評価が低かった。このため、担当教員間で授業方法の情報共有を行い、授業改善が必要である。さらに、授業改善について検討した結果を学内で共有していただくことを希望する。

4. まとめ

当該プログラムのカリキュラムは文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の応用基礎レベルの内容を含んでいることが確認できた。今後、当該プログラムを履修する学生を増やせるように数学・統計学科目の授業内容の検討が必要である。また、科目担当教員間で情報共有を行い、授業改善が必要である。

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム評価委員会